

小美玉市の歴史を知ろう 60

古代国郡里制と市域の郷を推定する

大化の改新と常陸国の誕生

大化元年(645年)、中大兄皇子(あかののみのみま)や中臣鎌足の活躍によって、蘇我氏は滅亡し、新政府が誕生しました。天皇を中心とした中央集権の政治体制が始まります。国の財政確保のため、公地公民制をとり、戸籍や計帳を作成し、租庸調の税制など、新しい制度をつくりました。

新政府は改新の事業を進めるため、各国に国司を派遣し、「我姫の国」とよばれていた足柄山から東方の地を8つの国に分けて統治させます。その一つが常道で、常陸国となっていました。

常陸国と国郡里制

常陸国の政治の中心となる国庁(国衙)は茨城評(郡)に置かれ、現在の石岡市立石岡小学校の位置にあります。

行政機構として、国の管下には評と五十戸(里)が編成され、地方の村々まで支配が及びました。この制度は大宝元年(701年)の大宝律令などの律令制整備に伴い、



常陸国茨城郡の郷名(茨城県立歴史館「よみがえる古代の茨城」図録より)

国郡里制となり、のち里は郷に改められます。常陸国の郡はかつての6つのクニが、それぞれ評(郡)となり、小美玉市周辺は茨城評(郡)に属します。さらに、評(郡)の分地や新設があり、和同年中(708年)714年)までには、白壁(真壁)、河内、信太、行方、鹿島の5郡がで

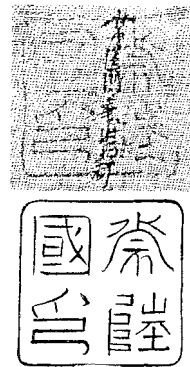
市域の古代郷推定と遺称地

平安時代に作成された「和名類聚抄」によると、小美玉市域が属する茨城郡は18郷からなり、江戸時代に編まれた地誌書である「新編常陸国誌」では、郷に属する市内の地域を次のように推定しています(現在の大字名で表記)。

- 生園郷 小曾納 大谷 花野井 竹原
- 竹原中郷 竹原下郷 上馬場 鶴田 三箇 宮田 中延 川戸 野田
- 山前郷 羽鳥
- 石間郷 堅倉 中野谷 部室 中台
- 白川郷 世楽 佐才 上吉影 前原 上合
- 下吉影 飯前 小岩戸 西郷地 柴高
- 田余郷 上玉里 下玉里 川中子 高崎
- 小川下馬場 小端
- 立花郷 外之内 与沢 倉敷 山野 幡谷
- 茨城郷 田木谷 栗又四ヶ
- (張星、納場、江戸、羽刈、高田、手堤、大笹、寺崎、先後、橋場美などは、江戸時代以降の新田村もしくは分村です)

市域には7つの郷が所在していたと思われる。生園郷は小曾納、山前郷は石岡市山崎、石間郷は笠間市岩間、白川郷は旧白河村、田余郷は旧玉里村、立花郷は旧橋村、茨

城郡は石岡市茨城に地名が残り、古代の行政区割りを現在に伝えています。(市文化財保護審議会 会長 海老澤 稔)



常陸国印

語句解説

公地公民制 律令制のもとで、すべての土地と人民は天皇に属するとしての制度。

計帳 調・庸を割り当てるために国ごとに毎年作成され、氏名・年齢などが戸ごとに記された帳簿。

大宝律令 大宝元年に施行された日本の律令法典。唐の律令を参考にし、たと考えられている。

和名類聚抄 承和年間(931年)938年)頃に編さんされた分類形式の百科事典兼国語辞書。平安時代の器物や地名などが項目ごとに解説されている。

遺称地 遺構・遺跡があったと古くから言い伝えられてきた地。